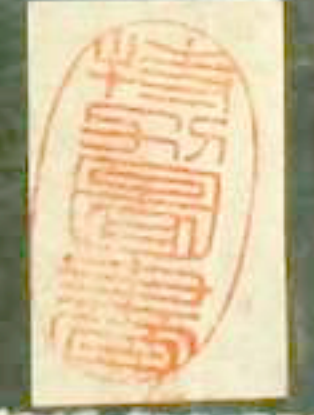
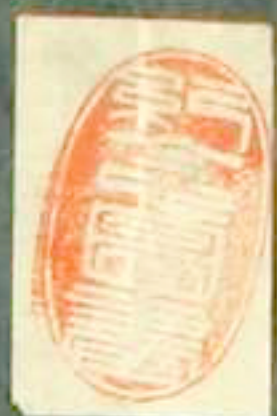


今更に
四



遠 13
1614
4



1614
4

林三又



今源氏宣弘

同録

① 親子^{おやこ}は^{やが}り木



石之巻



後室^{ごむろ}の^{やう}風^{ふう}よ

の^ちら^りと^まは^られ^た松

中^{なかつ}は^まに^くく^し

藤子の^{ふじの}波^{なみ}川

書^{かき}し^る

又^{また}は^あら^はた^まは^られ^た深

二 恋物よまのじ歌

此のく麻子の身を
あがり深
又その西せんを
せよ
中川の夕
がくさ

三 親子あいの歌

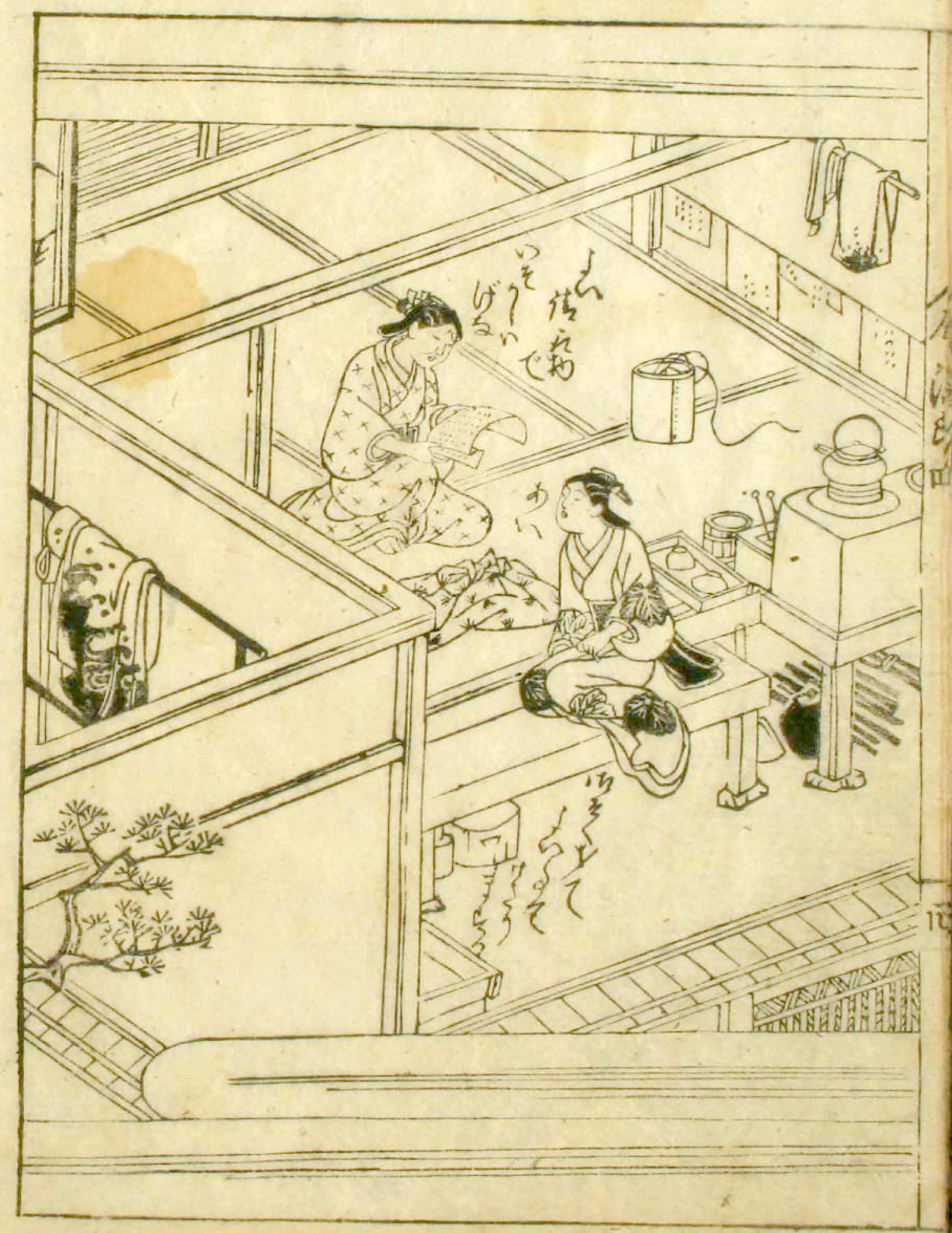
乱萩乱とら
お出く麻子
肉れ愛あつら
出りくさ
お

今源氏うのわが糸

一 親子のなごり木

四之巻

源がうらとぬが母やうくあてくにゆりはくどおひつ
いじとあがうらうのいふとをぬくうらぶさよせのた
せいのとせうらうらねど。目とあはれ糸糸後をもん村と
とんくさうらうらうらあてにせわうら。うらうら十
ゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あてとあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
よわらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
けしとあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
細らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

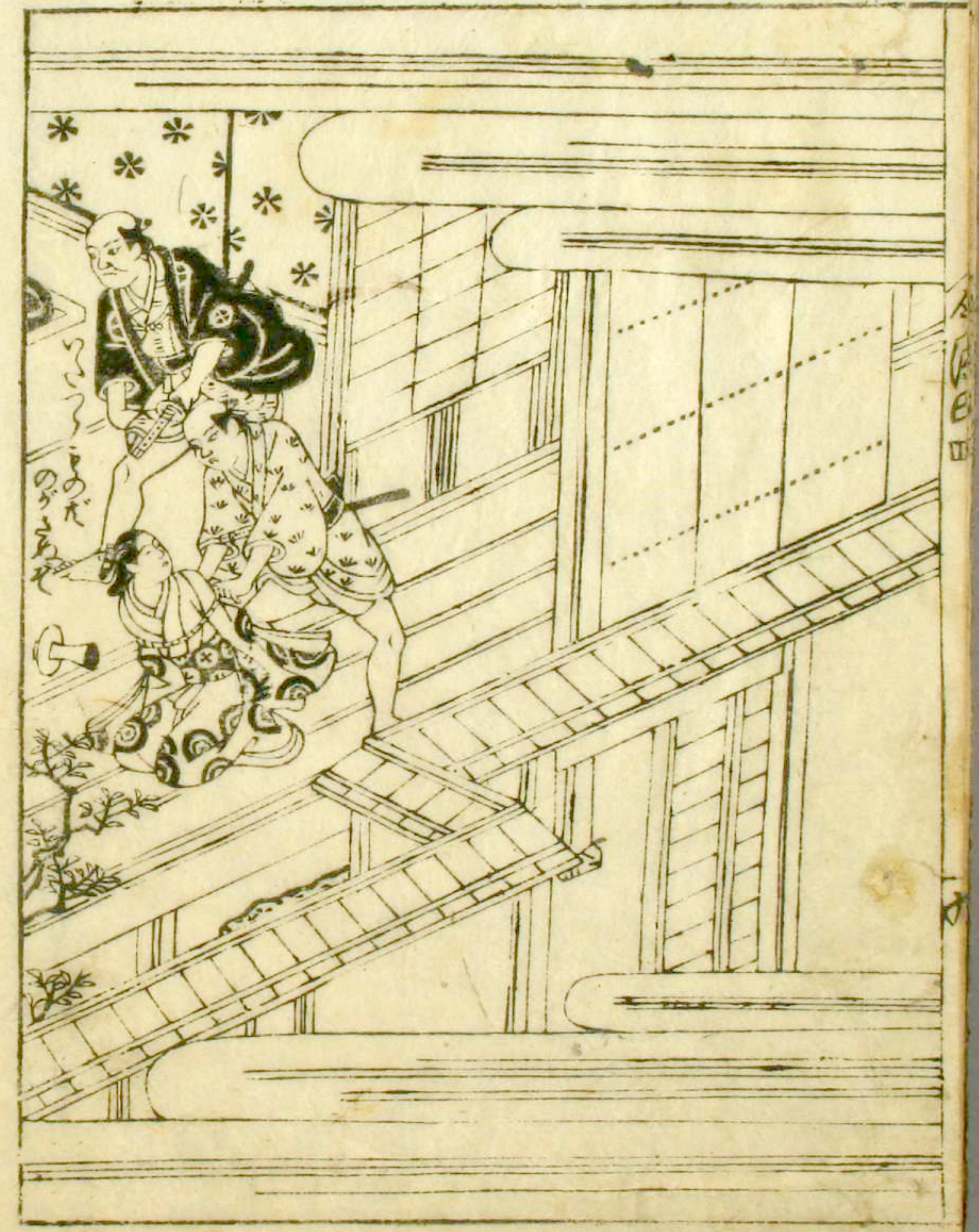


のたりけでいひがしはみけ侍終と通し。人の口は
 戸ウきりまじびわのぬるの初とつうの致す。わきて
 娘しわあんどあこ。そあこよらまひあしやととと
 へとこつり。あつうつらあこはもつらととにまひらあつら
 めらあこつらうつらあこはもつらととにまひらあつら
 いやん。あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 めらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 物しぬ母あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 口。あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 たりあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 つらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

ぐいあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 じびらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 よいこよらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 のんでつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

② 意海よまはじ死

わらるあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 延引致と今めあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 去付あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 ちりあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 仕あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 けあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら



又十歳の葉花とてあしひらきいさひいさひを
 いせりてたこしひらきいさひいさひをいせりて
 人さまのいの浦のつらうりややりのおきかこいさひ
 の時とてあしひらきいさひいさひをいせりて
 くまのいさひいさひいさひいさひいさひいさひ
 大いさひいさひいさひいさひいさひいさひいさひ
 やくいさひいさひいさひいさひいさひいさひいさひ
 うみたくいさひいさひいさひいさひいさひいさひ

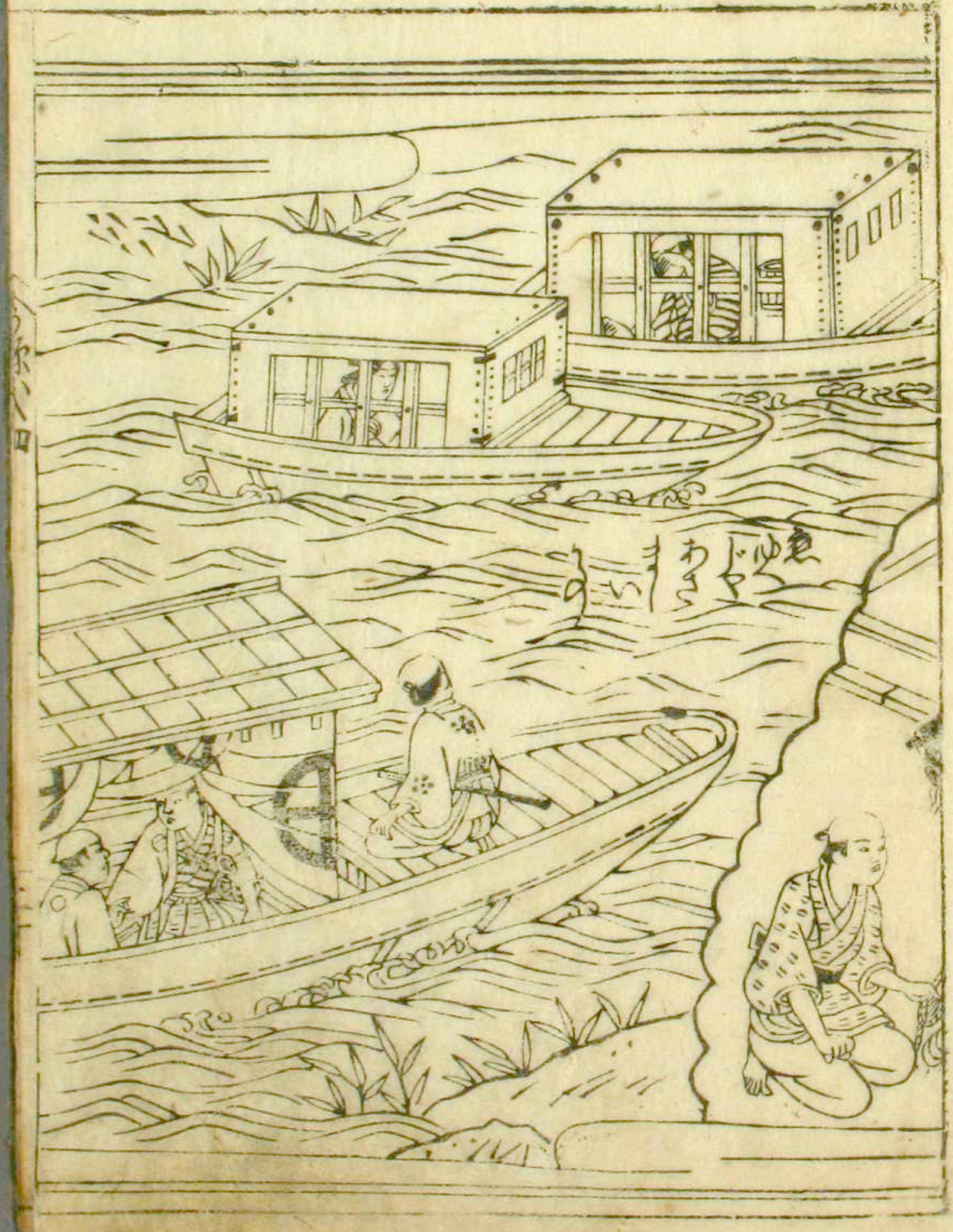
何事やらんとせしむけし。さういふとて
 のおしひらきいさひいさひいさひいさひいさひ
 中村いさひいさひいさひいさひいさひいさひ
 色いさひいさひいさひいさひいさひいさひいさひ
 めんとあしひらきいさひいさひいさひいさひいさひ
 女いさひいさひいさひいさひいさひいさひいさひ
 舌いさひいさひいさひいさひいさひいさひいさひ
 舌いさひいさひいさひいさひいさひいさひいさひ

高井めじりさぶら車年を後の御へい引。まがや
まのあまひひのきりてらるうきあかしくあかしの代交へ
かんのあまひのころば大車うけし結末せよ月がらたう
さうきで病なりのとわ言家ぬしくこはまぐり徳の
おのころばひききねをぬゆきと家ぬ一あけはり海
中人の病を引さゆ。ふうとひつがういひ見がきせめてか
かつてどうなるめまうごらういでもあんたる。高野二
かみよわりのつとまじびてひねれとらうもさちらりぬるおが
あつらふよわるとちるべしあかちかしく

③ 彰りのありのわあ

わがうらなれたとて所定よもてそ者たるはよとる道わ

のさうがら。おわかやとるあつてとのまひもさく人えんご
てい。ととくよを交へいひせたる。田人の若さをとらつとと人
ふあはらふけんをすへは野の。あまも根伸あはつとと
しぬ。まを軍車を。傍村木子入を。地をまきふらまに
居るごま。このがやふあはらとさる方まか。我くよはれを
て面後のねごひ。つぶさよりべしとけたる。村は三身はらふ
あも輝りよを養余の養よあはれ。私らつといよとらとや
とわい。あかひけいよのたも私を其後とて此高貴は
ゆ事。私一歌ゆよわればおの異旅高内と回あわや。お
くよ入迎よとまりたくしお出入高貴とていあはれせ
とりのひ。ひあはれえの信用は付。ひ方とぬよはれけりあり



ついで。我ゆかりの死にのちのちとてなごころみよ
 がりうらん。もろの世のわくをひきかきまはしむ
 るべし。命ありがたを又わたりしありあふ。百里可里
 とるべしつるし。世のしらべも総てでつりまは
 り。いとまのあひびのあひなつりよふまへ。あひび
 と申せし。一箇のいふまへに申す

ひのいふまへに申す人もいふ

ういふ世のあひびとてなごころみよ

吟とくれだ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 恋色我とろのあひびのあひなつりよふまへ。あひび
 ららんやうもあひびのあひなつりよふまへ。あひび

あんとろのあひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 びとろのあひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 とりあひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 そこのあひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 あひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 かよ申す。あひびのあひなつりよふまへ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 とてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 わけぬせよ。あひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 つつあひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 かぎりあひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ
 とあひびとてなごころみよ。あひびのいふまへに申すもろの世のわくをひきかきまはしむ

いよふかづきまき糸まき。ひとりこづかこぞおぶ
祢養海とてどろこころ中てけたおのうらなやう
ゆいよぬとさぐ傍まなびんはくもての言から月の
出いかららこころ。ねあめくとわらしたうの物
ぶらよ徳づくもひ年ひそぢりふ。こころ系は
くけてこぞいおぬと人よつげよあまのつり糸法
の糸法のまづちまふ子者。まよなりくる糸
めづり毛づくまよあひひは。あつづひのまよか
つよりお明ごの祢の麻の同。あまこころもはまをま
くあひまよめや。後よ油といひこころとぞ

今源氏宣私記巻 終

